

## 貞明皇后と高円寺村

原田 弘



大河原家の庭（金蔵夫妻とお孫さん）

明治十七年頃の高円寺は東京府東多摩郡高円寺村と呼ばれ蛇行する桃園川と田んぼ、南側北側は、川を境に北が原、南が通りと一般的に云われていました。国木田独歩の名作「武藏野」に書かれているような風景がまだまだここかしこに見られたと思います。

この頃ご府内神田錦町一丁目にあつた公爵九条道孝邸で四女節(きだ)子姫が産声を上げました。

大野さんは九条家にこのことを報告しました。こうして九条家で生まれて七日目になる四女節子姫は里子として高円寺村に連れてこられたのです。（現高円寺北一丁目）明治十七年七月（一八八四年）のことです。

九条道孝公の予想通り、節子姫は蚕糸試験場へお成りの後、約十五分間家に寄り亡きご夫妻の靈に手を合わせられたということになります。



節子姫 6才の写真

九条家に帰られたのが五年近くたつた明治二十一年十一月のことです。節子姫は後に大正天皇の皇后となり、昭和天皇をはじめ秩父、高松、

三郎という人に姫を里子に出したい道孝公はこの子を自然の環境の中で健康に育てたいと思い、高円寺村からお屋敷へ出入りしている大野喜

が適当な家を紹介してとご依頼がありました。

## 歴史スポット

⑯

喜三郎は自分の村で藍玉家業を広く営み、家柄素性もはつきりしている大河原家ならと考えました。特に妻が最近子供を亡くし乳があまつて

いるということを聞いたのでこれ幸いと、早速大河原家の金蔵夫妻にこの九条公の話を持つて行き、はじめは、どうも身分があまりに違うからと断る大河原夫妻を説得しました。

大野さんは九条家にこのことを報告しました。こうして九条家で生まれて七日目になる四女節子姫は里子として高円寺村に連れてこられたのです。（現高円寺北一丁目）明治十七年七月（一八八四年）のことです。



御料車窓に仰ぐ

ついさん「大光院玉峯貞鏡大姉」  
金蔵さん「大徳院金峯明鏡居士」  
又この戒名は当時の高円寺住職村上證契師がつけたものといわれています。

（掲載の写真は、大河原家のご好意で提供頂きました）

原田 弘氏

杉並郷土史会会長・(元)日本歴史学会会員・杉並区文化財保護指導員・日本ペンクラブ会員

三笠の三親王殿下をお生みになりました。

大正天皇がお亡くなりになつた後も、淺川の御陵へのお詣りには必ず

汽車は最徐行し、大河原家は日印の吹き流しをたて、ご挨拶したそうで、皇太后になられた昭和二十三年十月、